

# ● もくじ

もくじ .....	1
はじめに .....	2
本書の読みかた .....	4
<b>1</b> 初めて電源を入れるときは .....	6
1 電源を入れる .....	6
2 Windows XPのセットアップ .....	7
3 セットアップを終了したあとに .....	14
4 ユーザ登録をする .....	15
<b>2</b> 電源の切りかた .....	16
<b>3</b> 省電力機能について .....	17
1 省電力機能について .....	17
2 省電力モードについて .....	17
3 省電力モードへの移行 .....	18
4 省電力モードからの復帰 .....	21
<b>4</b> Windows XPモデルの使用にあたって .....	22
1 CD/DVDへの書き込みについて .....	22
2 製品仕様について .....	25
<b>5</b> リカバリをする .....	26
1 システムを復元する .....	26
<b>6</b> リカバリをしたあとは .....	30
1 Windows セットアップのあとは .....	30
2 Office 製品を再インストールする .....	30
<b>7</b> ハードディスクの内容の消去 .....	31
<b>8</b> 付録 .....	34

# ● はじめに

このたびは、本製品をお買い求めいただき、まことにありがとうございます。

本書は、Windows XPのセットアップ方法と、Windows Vistaモデルとは異なる操作や機能などについて説明しています。パソコン本体の機能説明や取り扱い方法については、付属の『取扱説明書』をお読みになり、操作を行ってください。

また、本製品を安心してお使いいただくために重要な事項が添付の冊子『安心してお使いいただくために』に記載されています。必ずお読みになり、正しくお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるようにお手元に大切に保管してください。

## ● 記載について

- ・ご購入のシリーズによって内蔵されているコネクタや拡張スロットなどは異なります。詳細については『取扱説明書』をご覧ください。
- ・本書に記載している画面は、表示例です。実際に表示される画面と異なる場合があります。

## ● Trademarks

- ・Microsoft、Windows、Windows Vistaは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- ・Windowsの正式名称は、Microsoft Windows Operating Systemです。

本書に掲載の商品の名称は、それぞれ各社が商標または登録商標として使用している場合があります。

## ● プロセッサ (CPU) に関するご注意

本製品に使われているプロセッサ (CPU) の処理能力は次のような条件によって違いが現れます。

- 周辺機器を接続して本製品を使用する場合
- 複雑な造形に使用するソフト (例えば、運用に高性能コンピュータが必要に設計されているデザイン用アプリケーションソフト) を本製品上で使用する場合

本製品のハードウェア構成に変更が生じる場合、CPUの処理能力が実際には仕様と異なる場合があります。

また、ある状況下においては、本製品は自動的にシャットダウンする場合があります。これは、当社が推奨する設定、使用環境の範囲を超えた状態で本製品が使用された場合、お客様のデータの喪失、破損、本製品自体に対する損害の危険を減らすための通常の保護機能です。なお、このようにデータの喪失、破損の危険がありますので、必ず定期的にデータを記録メディアにて保存してください。また、プロセッサが最適の処理能力を発揮するよう、当社が推奨する状態にて本製品をご使用ください。

このほかの使用制限事項につきましては各種説明書をお読みください。また、詳細な情報については東芝PCあんしんサポートにお問い合わせください。

## ● 著作権について

音楽、映像、コンピュータ・プログラム、データベースなどは著作権法により、その著作者および著作権者の権利が保護されています。こうした著作物を複製することは、個人的にまたは家庭内で使用する目的でのみ行うことができます。上記の目的を超えて、権利者の了解なくこれを複製（データ形式の変換を含む）、改変、複製物の譲渡、ネットワーク上での配信などを行うと、「著作権侵害」「著作者人格権侵害」として損害賠償の請求や刑事処罰を受けることがあります。本製品を使用して複製などをする場合には、著作権法を遵守のうえ、適切な使用を心がけてください。

## ● お願い

- 本製品の内蔵ハードディスクにインストールされている、または付属のCD／DVDからインストールしたシステム（OS）、アプリケーション以外をインストールした場合の動作保証はできません。

# ● 本書の読みかた

## ● 記号の意味



お願い

・データの消失や、故障、性能低下を起こさないために守ってほしい内容、仕様や機能に関して知っておいてほしい内容を示します。



メモ

・知っていると便利な内容を示します。

☞ 参照先を示しています。

本書内の参照先は「 」で示し、ほかの説明書の参照先は『 』で示しています。

(注) 補足説明をしています。

## ● 用語について

本書では、次の用語について定義します。

システム	特に説明がない場合は、ご使用になるオペレーティングシステム (OS) を示します。
Windows XP	Microsoft® Windows® XP Professional operating system 日本語版を示します。
Windows	Windows XP を示します。
Windows XP モデル	Microsoft® Windows® XP Professional operating system 日本語版がプレインストールされているモデルを示します。
Windows Vista モデル ...	Windows Vista® Business がプレインストールされているモデルを示します。
アプリケーションまたはアプリケーションソフト	アプリケーションソフトウェアを示します。
ドライブ	DVD-ROM ドライブまたは DVD スーパーマルチドライブを示します。内蔵されているドライブはモデルによって異なります。
DVD-ROM モデル	DVD-ROM ドライブが内蔵されているモデルを示します。
DVD スーパーマルチモデル	DVD スーパーマルチドライブが内蔵されているモデルを示します。
ハードディスク 1 基搭載モデル	ハードディスクドライブが 1 台搭載されているモデルを示します。
ハードディスク 2 基搭載モデル	ハードディスクドライブが 2 台搭載されているモデルを示します。

DVD-ROM/HDD 1 基搭載モデル

..... DVD-ROM ドライブが内蔵され、ハードディスクドライブ  
が 1 台搭載されているモデルを示します。

DVD-ROM/HDD 2 基搭載モデル

..... DVD-ROM ドライブが内蔵され、ハードディスクドライブ  
が 2 台搭載されているモデルを示します。

Office 搭載モデル ..... Microsoft® Office Personal 2007 がプレインストール  
されているモデルを示します。

Office Personal 2007 ... Microsoft® Office Personal 2007 を示します。

# ① 初めて電源を入れるときは

## ① 電源を入れる

『取扱説明書』の順に従って、必要な機器（マウス、キーボード、ディスプレイなど）を接続して、電源を入れてください。

パソコン本体の電源を初めて入れるときは、Windows を使えるようにするために、「Windows セットアップ」という操作が必要です。

1 度 Windows のセットアップをすれば、以降は、電源を入れるとすぐに Windows を使用することができます。

## ● セットアップをするときのご注意



お願い

- ・マウスとキーボードが接続されていることを確認してください。接続していないと、セットアップを行うことができません。
- ・増設メモリ、PCI カード、PCI Express カードを取り付けたり、プリンタを接続するなどの機器の拡張を行っている場合、正しくセットアップできない場合があります。ディスプレイやマウス、キーボード以外の周辺機器の取り付けや接続はシステムのセットアップ終了後に行ってください。
- ・セットアップを行うときは、LAN ケーブルは接続しないでください。LAN ケーブルが接続されていると、ネットワークの設定が既定値（default）のままネットワークに接続してしまうため、ネットワークに障害をもたらす場合があります。
- ・システムのセットアップ中は、絶対に電源を切らないでください。
- ・やむをえない場合以外は、セットアップ中にキャンセルしないでください。正しくセットアップできない場合があります。
- ・ケーブル類が確実に接続されていることを、もう 1 度確認してください。
- ・セットアップを行わないと、あらかじめインストールされているシステム（Windows XP）やアプリケーションを使用することはできません。



メモ

- ・一定時間（10 分または 15 分以上）キーを押さない（マウスの操作も含む）場合、省電力機能がはたらき、画面に表示される内容が見えなくなりますが、故障ではありません。**[Shift]** キーなどを押すと画面に表示されます。また、電源ランプが緑色に点滅しているとき（スタンバイ状態）は、電源スイッチを短く押すと画面に表示されます（4 秒以上電源スイッチを押し続けると、電源が切れますので、短く押ししてください）。
- ・システムの復元を行った場合にも、「Windows セットアップ」の作業が必要です。

## ② Windows XP のセットアップ

Windows XP のセットアップでは、次のことを行います。

- マイクロソフト 使用許諾契約書 (Windows のライセンス) への同意  
マイクロソフト 使用許諾契約書の内容をお読みになり、契約内容に同意するかしないかを選択してください。なお、[同意します] を選択しないと、Windows を使用することはできません。
- 管理者パスワードの設定  
Administrator のパスワードを設定します。
- ユーザ名の設定  
ユーザ名の設定を行います。

ネットワークに接続する設定は、セットアップ完了後に行えますので、ここでは省略した場合の手順を説明します。

ネットワークの設定を行う場合は、必ずネットワーク管理者にお問い合わせください。



お願い

- ・ Product Key がパソコン本体に貼られている Microsoft "Certificate of Authenticity" ラベルに印刷されています。  
Microsoft "Certificate of Authenticity" ラベルは、はがしたり傷つけたりなどして、絶対になくさないでください。再発行はできません。  
紛失した場合、マイクロソフト社からの保守サービスが受けられなくなります。

## ● セットアップの操作手順

次の手順に従ってセットアップを行ってください。

初めて電源を入れると、[Microsoft Windows へようこそ] 画面が表示されます。



メモ

- ・ Windows セットアップのヘルプを表示するには、画面右下の ? ボタンをクリックするか [F1] キーを押します。

# 1 [次へ] ボタンをクリックする

[使用許諾契約] 画面が表示されます。



# 2 画面下部の [同意します] をチェックし、[次へ] ボタンをクリックする

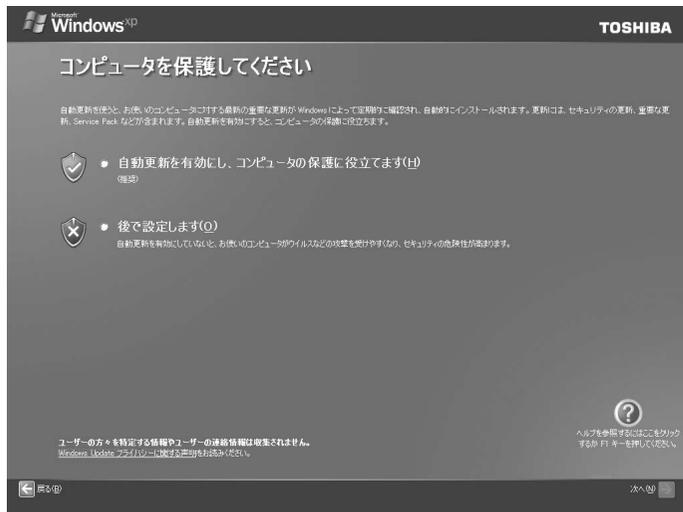
契約の内容を必ずお読みください。

表示されていない部分を見るには、▲▼ ボタンをクリックして画面をスクロールさせてください。

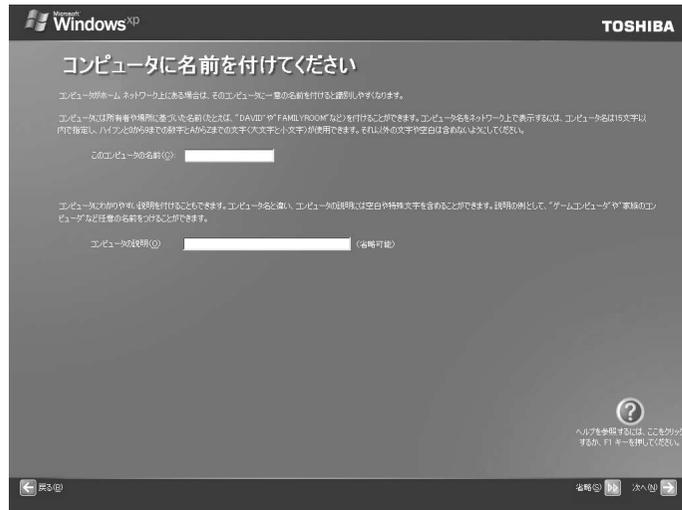


・ 契約に同意しなければ、セットアップを続行することはできません。[同意しません] を選択した場合は、次にパソコンを起動したとき、最初からセットアップをやり直す必要があります。

[コンピュータを保護してください] 画面が表示されます。



### 3 目的に合わせてどちらかの項目をチェックし、[次へ] ボタンをクリックする [コンピュータに名前を付けてください] 画面が表示されます。



### 4 [このコンピュータの名前] にコンピュータ名を入力し、[次へ] ボタンをクリックする

半角英数字で任意の文字列を入力してください。**半角英数字以外は使用しないでください。**  
このとき、同じネットワークに接続するコンピュータとは別の名前にしてください。  
コンピュータ名の付けかたに関しては、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

[管理者パスワードを設定してください] 画面が表示されます。



## 5 [管理者パスワード] にパスワードを入力する

Administrator と呼ばれる管理者のユーザアカウントでは、コンピュータにフルアクセスできます。

パスワードには半角の英数文字および記号を使用することができます。



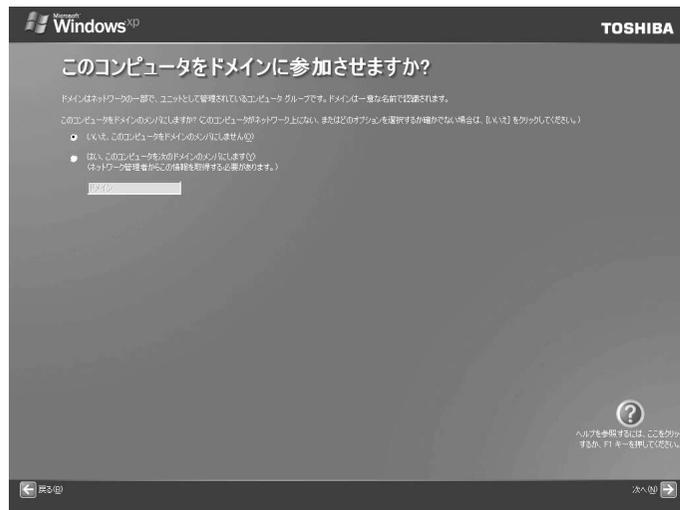
お願い

- ・パスワードは大文字と小文字が区別されますので注意してください。  
たとえば「PASSWORD」と「password」は別のパスワードとして識別されます。

[管理者パスワード] 欄での入力後、**[Tab]**キーを押すと、「|」（カーソル）が [パスワードの確認入力] 欄に移動します。

## 6 [パスワードの確認入力] にもう1度パスワードを入力し、[次へ] ボタンをクリックする

[このコンピュータをドメインに参加させますか?] 画面が表示されます。



## 7 【いいえ、このコンピュータをドメインのメンバにしません】 をチェックし、 【次へ】 ボタンをクリックする

ドメインの設定は、セットアップ完了後に行えるので、ここでは省略した場合について説明します。

[インターネットに接続する方法を指定してください。] 画面が表示されます。[インターネット接続を確認しています] 画面が表示されることがありますが、そのままお待ちいただくと [インターネットに接続する方法を指定してください。] 画面が表示されます。



## 8 【省略】 ボタンをクリックする

インターネット接続の設定は、セットアップ完了後に行えるので、ここでは省略した場合について説明します。

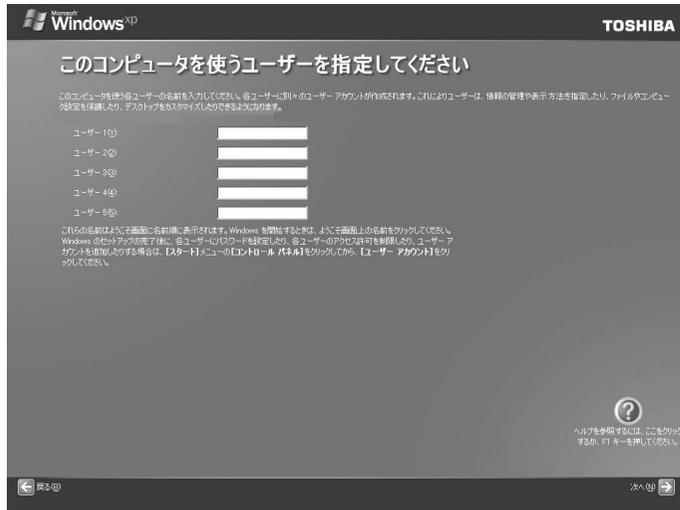
[Microsoft にユーザー登録する準備はできましたか?] 画面が表示されます。



## 9 [いいえ、今回はユーザー登録しません] をチェックし、[次へ] ボタンをクリックする

マイクロソフト社へのユーザ登録は、市販の Windows XP を購入された場合のみ必要ですので、ここでは省略します。

[このコンピュータを使うユーザーを指定してください] 画面が表示されます。



## 10 [ユーザー 1] 欄に使う人の名前を入力する

Windows XP では複数のユーザを設定し、それぞれのユーザごとに別々の環境を構築できますが、ここでは 1 人の名前だけ入力した場合について説明します。

「|」(カーソル) が表示されている位置から文字などを入力できます。「|」(カーソル) が表示されていない場合は、[ユーザー 1] 欄にポインタを合わせてクリックしてください。



メモ

・標準状態での入力方法は、ローマ字入力です。

例：半角英数字で“nakata”と入力する場合

### 1 [半角/全角]キーを押す

日本語入力システム MS-IME の日本語入力モードをオフにします。

### 2 [N][A][K][A][T][A] とキーを押す

入力ミスをした場合は、[Back Space]キーを押して入力ミスした文字を削除します。

## 11 [次へ] ボタンをクリックする

[設定が完了しました] 画面が表示されます。



## 12 [完了] ボタンをクリックする

Windows のセットアップが終了してパソコンが再起動し、デスクトップ画面が表示されます。



- ・ハードディスク 1 基搭載モデルでは、工場出荷時に、約半分の領域が C ドライブ (NTFS)、残りの領域は D ドライブ (NTFS) にパーティション設定されています。
- ・ハードディスク 2 基搭載モデルでは、1 台目のハードディスクドライブの全領域が C ドライブ (NTFS) に設定されています。2 台目のハードディスクドライブは未使用状態になっています。2 台目のハードディスクドライブの領域をドライブとして使用するには「ディスクの管理」を使用してください。
  - ☞ ハードディスクドライブの設定 ☞ 「本節 3- ハードディスクドライブの設定をする」
- ・東芝へのユーザ登録を行ってください。
  - ☞ ユーザ登録 ☞ 「本節 4 ユーザ登録をする」

### ● Windows の使いかた

Windows の使いかたについては、[スタート] - [ヘルプとサポート] をクリックして、『ヘルプとサポート センター』をご覧ください。

Windows XP の最新情報やアップデートの情報は次のホームページから確認できます。

- Windows XP について
  - ホームページ : <http://www.microsoft.com/japan/windowsxp/>
- Windows XP のアップデート
  - ホームページ : <http://windowsupdate.microsoft.com/>

## 3 セットアップを終了したあとに

### ● ドメインに接続する

企業内など、ある 1 つにまとまったネットワークをドメインと呼びます。

ここでは、本製品をドメインに接続する設定方法を説明します。

ドメインのユーザ名やパスワードなど、詳しい設定方法がわからない場合はネットワーク管理者にお問い合わせください。

コンピュータの管理者アカウントでログオンし、次の操作を行ってください。

#### ● ドメインの設定方法

- 1 [スタート] - [コントロールパネル] をクリックする
- 2 [パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
- 3 [コンピュータの基本的な情報を表示する] をクリックする  
[システムのプロパティ] 画面が表示されます。
- 4 [コンピュータ名] タブで [変更] ボタンをクリックする
- 5 [ドメイン] に接続するドメインの名前を入力し、[OK] ボタンをクリックする
- 6 ドメインの [ユーザー名] と [パスワード] を入力し、[OK] ボタンをクリックする
- 7 [OK] ボタンをクリックする
- 8 [OK] ボタンをクリックする  
パソコンを再起動してください。

### ● ハードディスクドライブの設定をする

ハードディスク 2 基搭載モデルでは、2 台目のハードディスクドライブは未使用状態になっています。

ここでは、2 台目のハードディスクドライブの領域をドライブとして使用するための設定方法を説明します。

コンピュータの管理者アカウントでログオンし、次の操作を行ってください。

#### ● 2 台目のハードディスクドライブの設定方法

- 1 [スタート] - [コントロールパネル] をクリックする
- 2 [パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
- 3 [管理ツール] をクリックする
- 4 [コンピュータの管理] をダブルクリックする  
[コンピュータの管理] 画面が表示されます。

- 5 **【コンピュータの管理】** 画面左のメニューから **【ディスクの管理】** をクリックする
- 6 **【コンピュータの管理】** 画面右の **【ディスク1】** の領域部分を右クリックし、表示されるメニューから **【新しいパーティション】** をクリックする  
[新しいパーティション ウィザード] が開始されます。
- 7 **メッセージに従って設定する**

## **● ユーザー補助について**

画面を見る、音声を聞く、キーボードやマウスを操作するなどのパソコンでの作業が難しい場合、Windows XPでは **【ユーザー補助の設定ウィザード】** または **【ユーザー補助のオプション】** でユーザを補助します。

### ユーザー補助の設定ウィザード

**【ユーザー補助の設定ウィザード】** では、ユーザー補助に関する質問が表示されます。質問の回答に合わせ、自動的にパソコンを設定します。

- 1 **【スタート】 - 【コントロールパネル】** をクリックし、**【ユーザー補助のオプション】** をクリックする
- 2 **【Windows を構成して、ユーザーの視覚、聴覚、四肢の状態に合わせて使用する】** をクリックする

### ユーザー補助のオプション

**【ユーザー補助のオプション】** では、直接設定することができます。

- 1 **【スタート】 - 【コントロールパネル】** をクリックし、**【ユーザー補助のオプション】** をクリックする
- 2 **【ユーザー補助のオプション】** をクリックする

詳しくは、**【スタート】 - 【ヘルプとサポート】** をクリックして『ヘルプとサポートセンター』を起動し、「ヘルプトピックを選びます」の **【ユーザー補助】** をクリックして、説明をお読みください。

## **④ ユーザ登録をする**

東芝では、お客様へのサービス・サポートのご提供の充実をはかるために東芝 ID (TID) のご登録をおすすめしております。

登録の方法については、『取扱説明書』を確認してください。

## ② 電源の切りかた

次の手順に従って電源を切ってください。

### ● 電源切断時のお願い

- 電源スイッチで電源を切らないでください。作業中に電源スイッチで電源を切ると、故障やデータ消失の原因になります。  
なお、システムの異常などで強制的に電源を切りたい場合は、電源スイッチを4秒以上押し続けると電源が切れます。その際、作成中のデータは消失する可能性があります。
- 電源を切ったあと、もう1度電源を入れる場合は、5秒以上たってから入れてください。5秒以上経過していない場合は、誤動作することがあります。
- アプリケーションが起動しているときは、作業中のデータを保存し、アプリケーションを終了してから電源を切ってください。  
☞ 『各アプリケーションに付属の説明書』
- HDD アクセスランプ 、ドライブのアクセスランプが消えていることを確認してください。
- 電源を切ったあと、本体を移動する場合は、30秒以上たってから移動してください。電源切断直後はハードディスクドライブ、ファンなどの駆動部分が完全に停止していません。電源切断直後の移動は機器の故障の原因となります。

#### 1 [スタート] - [終了オプション] をクリックする

ドメイン参加している場合、[終了オプション] は [シャットダウン] と表示されます。

#### 2 [コンピュータの電源を切る] 画面で [電源を切る] をクリックする

ドメイン参加している場合は、プルダウンメニューから [シャットダウン] を選択して [OK] ボタンをクリックしてください。

#### 3 ディスプレイなどの、本体に接続している周辺機器の電源を切る

# ③ 省電力機能について

## ① 省電力機能について

省電力機能とは、パソコンのシステム、ハードディスクドライブ、ディスプレイなどを省電力モードにして消費電力を抑制する機能です。

省電力モード中は、次の状態になります。



お願い

・省電力モードでも一定の電力を消費しています。長時間使用しない場合は、1度省電力状態を解除してからWindowsを終了してください。

省電力モード	本体の電源ランプ	システム/ アプリケーション
システムが省電力モード（スタンバイ状態）のとき	緑色に点滅	停止する
ディスプレイが省電力モードのとき	緑色に点灯	停止しない
ハードディスクドライブが省電力モードのとき	緑色に点灯	停止しない
休止状態のとき	消灯	停止する

本製品にあらかじめインストールされているWindowsは、省電力機能を備えています。設定されている情報に従って、省電力機能を作動させることができます。ここでは、本製品とWindowsの省電力機能について簡単に紹介します。

## ② 省電力モードについて

本製品にある省電力モードとその動作は次のとおりです。

ディスプレイ	画面表示が消えます。
ハードディスクドライブ	モータの回転を停止します。
LAN接続 (ネットワークへの接続)	切断します。
USB対応機器	停止します。
PCIカード PCI Expressカード	動作を停止します。 (*カードによっては本製品を再起動するなどして初期化が必要になります。)
i.LINK (IEEE1394) 対応機器	停止します。



メモ

・3Dスクリーンセーバなど、比較的高い負荷でプロセッサを使用するスクリーンセーバを選択した場合、システムが使用中と判断されるため、「電源オプション」で設定した時間を経過しても省電力モードに移行しない場合があります。

## ● スタンバイ

本製品の消費電力を抑制します。通常モードへの復帰は、多少時間がかかります。また、ネットワークに接続していない場合は時間がかかることがあります。

スタンバイはBIOSセットアップの [Power Management Setup] の [ACPI Suspend Type] で、次のように設定を切り替えることができます。

- ・ [S1 (POS)] (Power On Suspend) ... ハードディスクドライブ、ディスプレイ、USB 対応機器、PCI カード、PCI Express カード、i.LINK (IEEE 1394) 対応機器などのデバイスの動作を停止します。
- ・ [S3 (STR)] (Suspend To RAM) ..... メモリ以外のほとんどのデバイスへの電源供給を停止します。



工場出荷時は BIOS セットアップの [Power Management Setup] の [ACPI Suspend Type] で [S3 (STR)] に設定されています。[S3 (STR)] は消費電力を抑えることができますが、接続している USB 対応機器、PCI カード、PCI Express カード、i.LINK (IEEE 1394) 対応機器によっては正常にスタンバイ状態に移行しない、またはスタンバイ状態から通常モードに復帰しない場合があります。動作に問題が生じる場合は、[ACPI Suspend Type] を [S1 (POS)] に切り替えてください。それでも動作に問題が生じる場合は、省電力機能を使用しない設定に変更してください。

BIOS セットアップについて ⇨ 『取扱説明書』

## ● 休止状態

本製品の消費電力を最小限に抑制します。休止状態に移行する直前の状態をハードディスクに保存します。通常モードへ復帰するとき、休止状態に移行する直前の状態を再現します。通常モードへの復帰は、多少時間がかかります。

# 3 省電力モードへの移行

設定された時間内にマウスまたはキーボードでの操作がない場合、自動的に省電力モードに移行します。

省電力モードに移行するまでの時間の設定方法は、次のとおりです。

## ● システムの省電力モード

Windows XP の省電力モードには、スタンバイと休止状態があります。

### ● スタンバイ

- 1 [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
- 2 [電源オプション] をクリックする

### 3 [電源オプションのプロパティ] の [電源設定] タブの [システムスタンバイ] で時間を選択する

初期値は [15 分後] です。

省電力モードを使用しない場合は、[なし] を選択してください。

### 4 [OK] ボタンをクリックする



・システムをスタンバイにすると、LAN 接続は切断され、接続している USB 対応機器、PCI カード、PCI Express カード、i.LINK (IEEE1394) 対応機器の動作は停止します。

手動でシステムをスタンバイに移行させることもできます。

操作方法は次のとおりです。

#### ● [スタート] メニューからの実行

##### ① [スタート] - [終了オプション] をクリックする

ドメイン参加している場合、[終了オプション] は [シャットダウン] と表示されます。

##### ② [スタンバイ] をクリックする

ドメイン参加している場合は、プルダウンメニューから [スタンバイ] を選択して [OK] ボタンをクリックしてください。

#### ● 電源スイッチを短く押す

電源スイッチを短く押すことによってスタンバイに移行することができます。

電源スイッチを 4 秒以上押すと電源が切れ、作成中のデータが消失するおそれがありますので、電源スイッチは短く押してください。なお、[電源オプションのプロパティ] の [詳細設定] タブにある [コンピュータの電源ボタンを押したとき] が [スタンバイ] になっている場合のみ、この機能は有効です。

初期値は [スタンバイ] です。

## ● 休止状態

### 1 [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする

### 2 [電源オプション] をクリックする

### 3 [電源オプションのプロパティ] の [電源設定] タブの [システム休止状態] で時間を選択する

初期値は [なし] です。

省電力モードを使用しない場合は、[なし] を選択してください。

### 4 [OK] ボタンをクリックする



・システムを休止状態にすると、LAN 接続は切断され、接続している USB 対応機器、PCI カード、PCI Express カード、i.LINK (IEEE1394) 対応機器の動作は停止します。

・[システム休止状態] が表示されていないときは、[休止状態] タブの [休止状態を有効にする] をチェックして [適用] ボタンをクリックしてください。なお、工場出荷時は [休止状態を有効にする] はチェックされています。

手動でシステムを休止状態に移行させることもできます。  
操作方法は次のとおりです。

● [スタート] メニューからの実行

① [スタート] - [終了オプション] をクリックする

ドメイン参加している場合、[終了オプション] は [シャットダウン] と表示されます。

② [休止状態] をクリックする

ドメイン参加している場合は、プルダウンメニューから [休止状態] を選択して [OK] ボタンをクリックしてください。

● 電源スイッチを短く押す

電源スイッチを短く押すことによって休止状態に移行することができます。

電源スイッチを4秒以上押すと電源が切れ、作成中のデータが消失するおそれがありますので、電源スイッチは短く押してください。なお、[電源オプションのプロパティ] の [詳細設定] タブにある [コンピュータの電源ボタンを押したとき] を [休止状態] にする必要があります。

初期値は [スタンバイ] です。

## ● ディスプレイの省電力モード

**1** [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする

**2** [電源オプション] をクリックする

**3** [電源オプションのプロパティ] の [電源設定] タブの [モニタの電源を切る] で時間を選択する

通常、初期値は [なし] です。EQUIUM5240 の場合のみ、初期値は [10分] です。  
省電力モードを使用しない場合は、[なし] を選択してください。

**4** [OK] ボタンをクリックする

## ● ハードディスクドライブの省電力モード

**1** [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする

**2** [電源オプション] をクリックする

**3** [電源オプションのプロパティ] の [電源設定] タブの [ハードディスクの電源を切る] で時間を選択する

初期値は [なし] です。

省電力モードを使用しない場合は、[なし] を選択してください。

**4** [OK] ボタンをクリックする

## 4 省電力モードからの復帰

### ● スタンバイからの復帰

システムのスタンバイから復帰するには、次の操作を行ってください。

- 電源スイッチを短く押す



- ・ BIOS セットアップの [Power Management Setup] の [ACPI Suspend Type] が [S1 (POS)] に設定されているときは、上記のほかに、キーボード入力またはマウスを動かすことによってスタンバイから復帰することもできます。
- ・ EQUIUM S6700 シリーズ、EQUIUM S6600 シリーズ、EQUIUM 3510 シリーズ、EQUIUM 3500 シリーズの場合 BIOS セットアップの [Power Management Setup] の [PS/2 KB Wake-Up From S3] が [Enabled] に設定されているときは、上記のほかに、キーボード入力することによってスタンバイから復帰することもできます。

### ● 休止状態からの復帰

休止状態から復帰するには、電源スイッチを押してください。



- ・ EQUIUM S6700 シリーズ、EQUIUM S6600 シリーズ、EQUIUM 3510 シリーズ、EQUIUM 3500 シリーズの場合 BIOS セットアップの [Power Management Setup] の [PS/2 KB Wake-Up From S4/S5] が [Enabled] に設定されているときは、上記のほかに、キーボード入力することによって休止状態から復帰することもできます。

### ● ディスプレイの省電力モードからの復帰

ディスプレイの省電力モードから復帰するには、次の操作を行ってください。

- キーボード入力をする
- マウスを動かす

### ● ハードディスクの省電力モードからの復帰

ハードディスクの省電力モードからは、ハードディスクへアクセスすることで、自動的に復帰します。

# 4 Windows XP モデルの使用にあたって

ここでは、本製品の操作や仕様などで、『取扱説明書』に記載された内容と異なる部分について説明します。

システムやお使いのモデルのソフトウェア環境によっては、このほかにも『取扱説明書』に記載された内容とは、一部動作が異なる場合があります。

## 1 CD / DVD への書き込みについて

DVD スーパーマルチモデルの場合、書き込みに使用できるアプリケーションとして、「TOSHIBA Disc Creator」のほかに「TOSHIBA Direct Disc Writer」が用意されています。

また、DVD-RAMのフォーマットをする場合は、「Direct Disc Writer Format Utility」を使用してください。『取扱説明書』に記載されている「東芝DVD-RAMユーティリティ」は、本製品では使用できません。

### ● CD / DVD に書き込む

DVD スーパーマルチモデルの場合、CD / DVD にデータを書き込むことができます。書き込みを行う際は「TOSHIBA Disc Creator」または「TOSHIBA Direct Disc Writer」を使用してください。

初めて使用するときは、[スタート] - [すべてのプログラム] - [アプリケーションの再インストール] をクリックし、表示される画面に従ってインストールしてください。

詳しい使用方はそれぞれのアプリケーションのヘルプをご覧ください。

本製品に添付の「TOSHIBA Disc Creator」「TOSHIBA Direct Disc Writer」以外のCD / DVD ライティングソフトウェアは動作保証していません。Windows 標準のCD書き込み機能や市販のライティングソフトウェアは使用しないでください。

「TOSHIBA Direct Disc Writer」を使用してCD / DVD に書き込みを行うときは、次のご注意をよくお読みのうえご使用ください。

「TOSHIBA Disc Creator」を使用してCD / DVD に書き込みを行うときは、『取扱説明書』に記載されているご注意をよくお読みのうえご使用ください。

守らずにご使用になると、書き込みに失敗するおそれがあります。また、ドライブへのショックなど本体異常や、メディアの状態などによっては処理が正常に行えず、書き込みに失敗することがあります。

本製品に搭載されているDVD スーパーマルチドライブには書き込みエラーを防ぐバッファアンダーランエラー防止機能を搭載していますが、電源切断やドライブへのショックなどの本体異常や、記録メディアの状態などによっては、処理が正常に行えず、エラーとなる場合があります。

書き込みに失敗したCD / DVD の損害については、当社は一切その責任を負いません。また、記憶内容の変化・消失など、CD / DVD に保存した内容の損害および内容の損失・消失により生じる経済的損害といった派生的損害については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。



・CD-R、DVD-R、DVD+Rに書き込みできるのは1回限りです。書き込みに失敗したCD-R、DVD-R、DVD+Rは再利用できませんが、CD-RW、DVD-RW、DVD+RWは消去すると再利用できます。

## ● 書き込む前に

- 書き込みの際には、書き込み可能なメディアをよくご確認ください。
  - ☞ ドライブで使用できる CD / DVD ⇨ 『取扱説明書』
  - ☞ 「TOSHIBA Direct Disc Writer」で使用できる CD / DVD
    - ⇨ 「本項 - 「TOSHIBA Direct Disc Writer」を使うために」
- CD / DVD に書き込むときには、それぞれの書き込み速度に対応し、それぞれの規格に準拠したメディアを使用してください。また、推奨するメーカーのメディアを使用してください。
- 書き込みを行うときは、本製品の省電力機能が働かないようにしてください。また、スタンバイや休止状態を実行しないでください。
  - ☞ 省電力機能について ⇨ 「3 省電力機能について」
- 次に示すような、ライティングソフトウェア以外のソフトウェアは終了させてください。
  - ・ スクリーンセーバ
  - ・ ウイルスチェックソフト
  - ・ ディスクのアクセスを高速化する常駐型ユーティリティ
  - ・ モデムなどの通信アプリケーション などソフトウェアによっては、動作の不安定やデータの破損の原因となります。
- LAN を経由する場合は、データをいったん本製品の内蔵ハードディスクドライブに保存してから書き込みを行ってください。
- SD メモリカード、USB 接続のハードディスクドライブなど、本製品の内蔵ハードディスクドライブ以外の記録メディアにあるデータを書き込むときは、データをいったん本製品の内蔵ハードディスクドライブに保存してから書き込みを行ってください。

## ● 書き込み／削除を行うときは

- マウスを動かす、ウィンドウを開く、ユーザを切り替える、画面の解像度や色数の変更など、パソコン本体の操作を行わないでください。
- パソコン本体に衝撃や振動を与えないでください。
- 周辺機器の取り付け／取りはずしを行わないでください。
- パソコン本体から携帯電話、およびほかの無線通信装置を離してください。
- 重要なデータについては、データ書き込み終了後、必ずデータが正しく書き込まれたことを確認してください。

## ● 「TOSHIBA Direct Disc Writer」 を使うために

- 「TOSHIBA Direct Disc Writer」 で使用できるメディアは、DVD-RW、DVD+RW、DVD-RAM、CD-RW です。
- CD / DVD をフォーマットすると、CD / DVD 上のすべてのデータが失われます。内容を確認のうえ、フォーマットしてください。
- 「TOSHIBA Direct Disc Writer」 はパケットライト形式での記録機能を備えたソフトです。「Direct Disc Writer Format Utility」 でフォーマット / 書き込みしたメディアをほかのパケットライトソフトでは使用しないでください。また、ほかのパケットライトソフトでフォーマット / 書き込みしたメディアに、「TOSHIBA Direct Disc Writer」 で書き込みは行わないでください。ほかのパケットライトソフトでフォーマットしたメディアを「TOSHIBA Direct Disc Writer」 で使用する場合は、「Direct Disc Writer Format Utility」 で完全フォーマットを行ってから使用してください。
- ファイルやフォルダの「切り取り」 → 「貼り付け」 は行わないでください。メディアやドライブに何らかの問題があった場合、もとのファイルやフォルダが消失することがあります。
- 「TOSHIBA Direct Disc Writer」 で書き込んだ DVD-RW メディアを「TOSHIBA Direct Disc Writer」 がインストールされていないパソコンで読み出すには、DVD-RW メディアを「互換化」 する必要があります。詳しくは「TOSHIBA Direct DiscWriter」 のヘルプをご覧ください。DVD+RW、CD-RW メディアについては、「互換化」 する必要はありません。
- 「Direct Disc Writer Format Utility」 でフォーマットされたメディア上にプログラムのセットアップファイルなどを保存し、そのメディア上からセットアップを実行しようとしたとき、エラーが発生することがあります。その場合は、セットアップに必要なファイルなどをいったんハードディスク上にコピーした状態で、ハードディスク上からセットアップを実行してください。
- 「TOSHIBA Direct Disc Writer」 で CD-RW、DVD-RW、DVD+RW メディアに書き込んだファイルは、変更・削除することができます。

「TOSHIBA Direct Disc Writer」 を使用する際は、ヘルプの「仕様および注意事項」をよくお読みください。

### ● 「TOSHIBA Direct Disc Writer」 のヘルプを見る方法

- 1 [スタート] - [すべてのプログラム] - [TOSHIBA] - [CD&DVD アプリケーション] - [Direct Disc Writer ヘルプ] をクリックする

## ● DVD-RAM を使うときは

ここでは、DVD スーパーマルチモデルで DVD-RAM に書き込みをする前に必要な操作について説明します。

フォーマットユーティリティとして、「Direct Disc Writer Format Utility」が用意されています。

「TOSHIBA Direct Disc Writer」をインストールしないと、「Direct Disc Writer Format Utility」は使用できません。

あらかじめ、[スタート] - [すべてのプログラム] - [アプリケーションの再インストール] から、「TOSHIBA Direct Disc Writer」をインストールしてください。

### ● フォーマットとは

新品の DVD-RAM は、使用する目的に合わせて「フォーマット」という作業が必要です。フォーマットとは、DVD-RAM にデータの管理情報（ファイルシステム）を記録し、DVD-RAM を使えるようにすることです。

フォーマットされていない DVD-RAM は、フォーマットしてから使用してください。

詳細は「TOSHIBA Direct Disc Writer」のヘルプを確認してください。



お願い

・フォーマットを行うと、その DVD-RAM に保存されていた情報はすべて消去されます。一度使用した DVD-RAM をフォーマットする場合は注意してください。

### ● ファイルシステム

DVD-RAM をフォーマットするときにファイルシステムを選択します。

ファイルシステムは、書き込むデータの種類や書き込み後のメディアを使用する機器に応じて選択します。また、映像データを書き込むときは、書き込み用のアプリケーションによって指定されている場合があります。

選択できるファイルシステムは「UDF2.00」「UDF1.50」「FAT32」です。

## ② 製品仕様について

本製品の製品仕様は、『取扱説明書』で説明しているものと一部異なります。

ここでは、『取扱説明書』に記載された内容と異なる部分について説明します。

- Windows XP モデルのハードディスク 1 基搭載モデルでは、工場出荷時に、約半分の領域が C ドライブ（NTFS）、残りの領域は D ドライブ（NTFS）にパーティション設定されています。
- ビデオ RAM 容量は、最大 128MB です。

# 5 リカバリをする

リカバリ（再セットアップ）とは、お客様が作成したデータや、購入後にインストールしたアプリケーション、現在の設定などをすべて削除し、もう1度ご購入時の状態に復元する作業です。

ここでは、本製品でのリカバリ手順について説明します。

リカバリをする前に確認することや、しておくことが『取扱説明書』に記載されていますので、作業を始める前に必ずお読みください。

## 1 システムを復元する

本製品にあらかじめインストールされている Windows やアプリケーションを復元します。

### ● 必要なもの

次のものを使用します。

- リカバリ DVD-ROM
- 取扱説明書
- セットアップガイド Windows XP（本書）

Office 搭載モデルの場合、Office Personal 2007 は、システムの復元後、さらに付属の CD-ROM で再インストールする必要があります。

☞ 詳細について『取扱説明書』

### ● 操作手順

システムを復元する方法を説明します。手順をよく確認してから行ってください。



お願い

・復元する際にハードディスクのフォーマットを行います。ハードディスクの内容はすべて削除されますので、必要なデータがある場合には、あらかじめフロッピーディスクなどに保存してください。

ハードウェア構成を変更している場合には、本パソコンをご購入時の状態に戻してから、システムの復元を行ってください。

・BIOS セットアップの [Advanced BIOS Features] で [First Boot Device]、[Second Boot Device]、[Third Boot Device] の設定がご購入時の状態と異なる場合、リカバリ DVD-ROM から起動されません。必ずご購入時の設定に戻してから、システムの復元を行ってください。

☞ BIOS セットアップについて ☞ 『取扱説明書』



メモ

・ハードディスクをフォーマットしたりシステムファイルを削除した場合や電源を入れてもシステムが起動しない場合は、データを保存することができません。標準システムの復元を行っても、ハードディスクに保存されていたデータは復元できません。

・「ご購入時の状態に復元」を選択して復元した場合、ハードディスク1基搭載モデルでは、約半分の領域をCドライブ（NTFS）に設定します。残りの領域は未フォーマット状態になります。「ディスクの管理」などでフォーマットしてから使用してください。ハードディスク2基搭載モデルでは、1台目のハードディスクドライブの全領域をCドライブ（NTFS）に設定します。2台目のハードディスクドライブについては、リカバリ前と同じ状態です。

## 1 パソコンをご購入時の状態に戻す

増設メモリ、取り付けた拡張カード類、周辺機器などはすべて取りはずし、フロッピーディスクドライブやブリッジメディアスロットからメディアを取り出してください。

## 2 「リカバリ DVD-ROM」 をセットして、パソコンの電源を切る

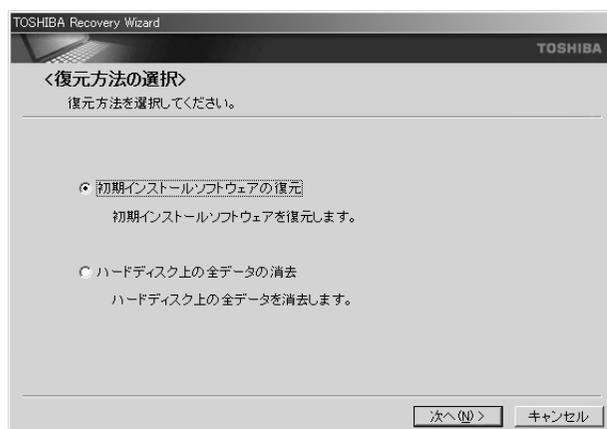
リカバリ DVD-ROM が複数枚ある場合は、「ディスク 1」 からセットしてください。

## 3 パソコンを再起動する

メッセージが表示されます。

## 4 画面の内容を確認し、[はい] ボタンをクリックする

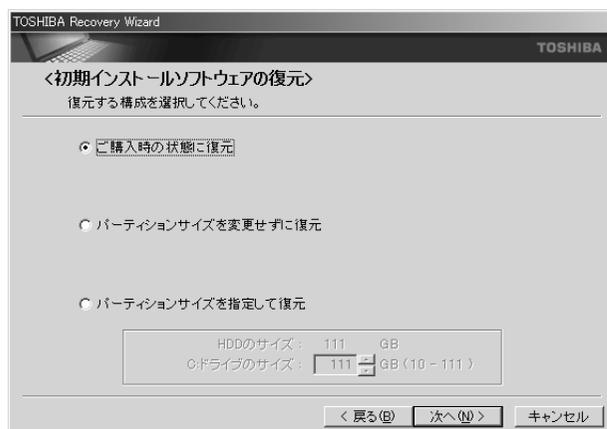
[復元方法の選択] 画面が表示されます。



## 5 [初期インストールソフトウェアの復元] をチェックし、[次へ] ボタンをクリックする

[ハードディスク上の全データの消去] は、パソコンを廃棄または譲渡する場合など、個人情報漏えいを防ぐために、ハードディスクのデータを完全に消去するためのものです。通常は実行しないでください。実行すると、ハードディスク上にある、すべてのデータが削除されます。

[初期インストールソフトウェアの復元] 画面が表示されます。



## 6 目的に合わせて項目を選択し、[次へ] ボタンをクリックする

各項目の内容と動作は、次のとおりです。

### ● ご購入時の状態に復元

パソコンを購入したときの状態に戻します。ハードディスク 2 基搭載モデルでは、1 台目のハードディスク (HDD1) のみ購入したときの状態に戻します。

[次へ] ボタンをクリックすると、「ハードディスクの内容は、すべて消去されます。」というメッセージが表示されます。

### ● パーティションサイズを変更せずに復元 (推奨)

[パーティションサイズを指定して復元] を使って、すでにハードディスクの領域を分割している場合などに使用します。C ドライブがリカバリされ、それ以外の領域のデータはそのまま残ります。

[次へ] ボタンをクリックすると、「先頭パーティションのデータは、すべて消去されます。」というメッセージが表示されます。

### ● パーティションサイズを指定して復元

C ドライブのサイズを変更します。

C ドライブ以外の領域区分 (パーティション) は消去され、一つの領域になります。

① [C : ドライブのサイズ] で   をクリックしてパーティション (C ドライブ) のサイズを指定する

② [次へ] ボタンをクリックする

[次へ] ボタンをクリックすると、「ハードディスクの内容は、すべて消去されます。」というメッセージが表示されます。



メモ

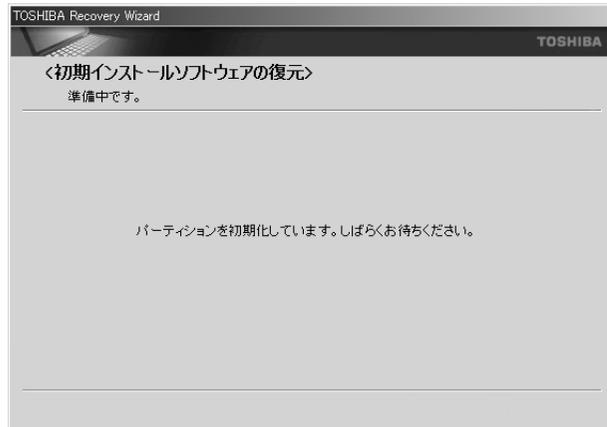
- ・ハードディスク 2 基搭載モデルでは、どのメニューを選択しても、1 台目のハードディスク (HDD1) の C ドライブには購入時と同じシステムが復元され、2 台目のハードディスク (HDD2) に保存されたデータや設定などは残ります。
- ・ハードディスク 2 基搭載モデルでは、内蔵されているハードディスク 2 台のうち、購入時の状態で最初に起動するように設定されているハードディスク (HDD1) だけにリカバリが実行されます。起動ドライブを 2 台目のハードディスク (HDD2) に変更している場合も、HDD1 に対してリカバリが実行され、以降の起動ドライブも HDD1 に戻ります。

## 7 [次へ] ボタンをクリックする

復元が実行されます。

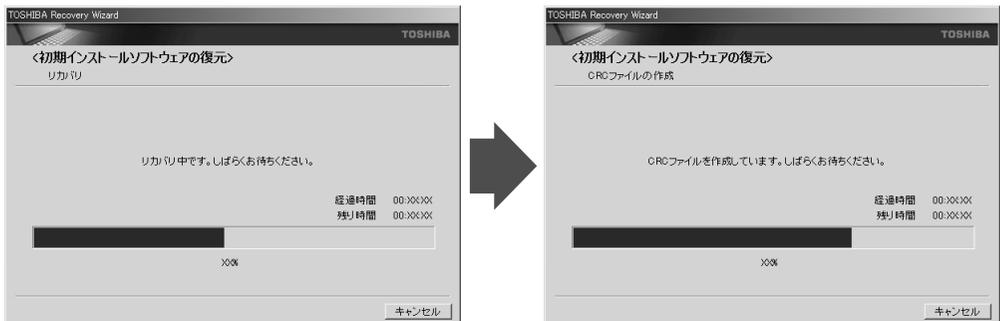
処理を中止する場合は、[キャンセル] ボタンをクリックしてください。

[パーティションを初期化しています。しばらくお待ちください。] 画面が表示されます。



長い時間表示される場合がありますが、画面が切り替わるまでお待ちください。

復元中は、次の画面が表示されます。リカバリの経過に従い、画面が変わります。



リカバリ DVD-ROM が複数枚ある場合、画面の指示に従って入れ替えてください。

復元が完了すると、終了画面が表示されます。

EQUIUM 5240 シリーズ、EQUIUM 5220 シリーズの DVD-ROM/HDD 1 基搭載モデルまたは EQUIUM 3510 シリーズ、EQUIUM 3500 シリーズの DVD-ROM モデルの場合、手順 8 で [終了] ボタンをクリックする前に、ドライブのイジェクトボタンを押してディスクを取り出してください。

## 8 [終了] ボタンをクリックする

自動的にディスクトレイが開きます。リカバリ DVD-ROM を取り出してください。

システムが再起動し、[Microsoft Windows へようこそ] 画面が表示されます。

## 9 Windows のセットアップを行う

Windows のセットアップについて ⇨ 「1 初めて電源を入れるときは」

# ⑥ リカバリをしたあとは

## ① Windows セットアップのあとは

### ● パーティションを設定してリカバリをした場合は

パーティションの設定を変更してリカバリをした場合は、リカバリ後すみやかに次の設定を行ってください。

- 1 コンピュータの管理者になっているユーザアカウントでログオンする
- 2 [スタート] - [コントロールパネル] をクリックする
- 3 [パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
- 4 [管理ツール] をクリックする
- 5 [コンピュータの管理] をダブルクリックする
- 6 左画面の [ディスクの管理] をクリックする  
設定していないパーティションは [未割り当て] と表示されます。
- 7 [ディスク0] の [未割り当て] の領域を右クリックする
- 8 表示されるメニューから [新しいパーティション] をクリックする  
[新しいパーティション ウィザード] が起動します。
- 9 [次へ] ボタンをクリックし、ウィザードに従って設定する  
次の項目を設定します。
  - ・パーティションの種類
  - ・パーティションサイズ
  - ・ドライブ文字またはパスの割り当て
  - ・フォーマット
  - ・ファイルシステム
- 10 設定内容を確認し、[完了] ボタンをクリックする  
フォーマットが開始されます。  
パーティションの状態が [正常] と表示されれば完了です。  
詳細については「コンピュータの管理」のヘルプを参照してください。

### ■ヘルプの起動

- ① メニューバーから [ヘルプ] - [トピックの検索] をクリックする

## ② Office 製品を再インストールする

\* Office 搭載モデルのみ

Office Personal 2007 を再インストールする方法については、『取扱説明書』を確認してください。

# 7 ハードディスクの内容の消去

パソコン本体を廃棄、または譲渡する際のハードディスクの消去方法について説明します。

パソコン本体の廃棄方法や、ハードディスク上のデータ消去の重要性などは、『取扱説明書』に記載されていますので、必ずお読みください。

## ● リカバリメディアから実行するデータ消去機能について

- 本製品のリカバリメディアにある [ハードディスク上の全データの消去] 機能は、ご使用方法を誤るとハードディスク上のプログラムや記録されたデータがすべて消去され、パソコンが起動できなくなります。この機能を使用して消去されたプログラムやデータは、市販のデータ回復プログラムなどを使っても復元できません。十分に機能をご理解のうえご使用ください。
- EQUIUM 5240 シリーズ、EQUIUM 5220 シリーズのハードディスク 2 基搭載モデルでは、両方のハードディスク上のすべてのデータやプログラムを消去します。消去したくないデータがある場合、消去作業の実行前に記録メディアにバックアップをとってください。
- 本機能は、データ消去プログラムが認識したハードディスクについて実行されます。ハードディスクを内蔵またはハードディスクとして動作する周辺機器が接続されていると、そのデータが消去されてしまう場合があります。また、標準搭載のハードディスクのデータが消去できない場合があります。  
増設した周辺機器は、消去作業の実行前に必ずすべて取りはずしてください。

## ● ハードディスクの内容をすべて消去する

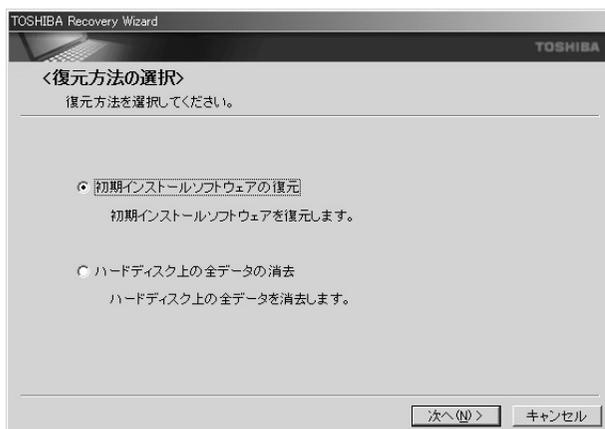
パソコン上のデータは、削除操作をしても実際には残っています。普通の操作では読み取れないようになっていますが、特殊な方法を実行すると削除したデータでも再現できてしまいます。そのようなことができないように、パソコンを廃棄または譲渡する場合など、他人に見られたくないデータを読み取れないように、消去することができます。なお、ハードディスクに保存されている、これまでに作成したデータやプログラムなどはすべて消失します。これらを復元することはできないので、注意してください。

ハードディスクの内容をすべて消去するには、次のように行ってください。

- 1 「リカバリ DVD-ROM」をセットして、パソコンの電源を切る**  
リカバリ DVD-ROM が複数枚ある場合は、「ディスク 1」をセットしてください。
- 2 パソコンを再起動する**  
メッセージが表示されます。

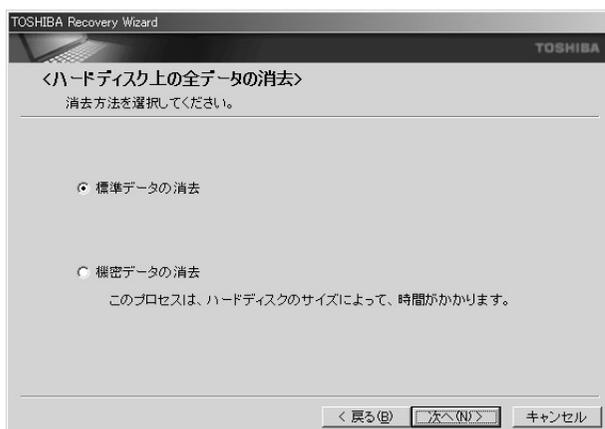
### 3 画面の内容を確認し、[はい] ボタンをクリックする

[復元方法の選択] 画面が表示されます。



### 4 [ハードディスク上の全データの消去] をチェックし、[次へ] ボタンをクリックする

[ハードディスク上の全データの消去] 画面が表示されます。



## 5 目的に合わせて項目を選択し、[次へ] ボタンをクリックする

各項目の内容と動作は、次のとおりです。

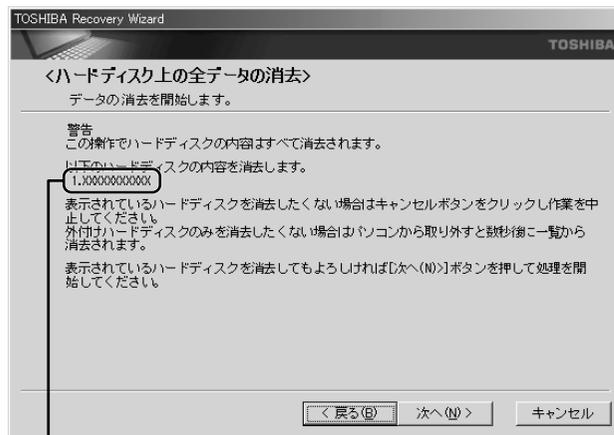
### ● 標準データの消去

通常はこちらを選択してください。データを読み取れなくなります。

### ● 機密データの消去

より確実にデータを消去したい場合に選択してください。数時間かかりますが、データは消去されます。

[次へ] ボタンをクリックすると、[ハードディスク上の全データの消去] 画面が表示されます。



内蔵されているハードディスクの種類によって、表示が異なります。

## 6 [次へ] ボタンをクリックする

処理を中止する場合は、[キャンセル] ボタンをクリックしてください。消去が実行されます。消去中は、次の画面が表示されます。



消去が完了すると、終了画面が表示されます。

## 7 [終了] ボタンをクリックする

自動的にディスクトレイが開きます。リカバリ DVD-ROM を取り出してください。

## ● ハードウェアリソースについて

ご使用の環境（ハードウェア／ソフトウェア）によって変更される場合があります。

- 1 [スタート] - [すべてのプログラム] - [アクセサリ] - [システムツール] - [システム情報] をクリックする
- 2 画面左側のツリーから [ハードウェアリソース] をダブルクリックする
- 3 調べたい項目をクリックする
  - メモリマップ : [メモリ]
  - I/O マップ : [I/O]
  - 割り込みレベル : [IRQ]
  - DMA チャンネル : [DMA]

## ● 回復コンソール

Windows XP に重大なエラーが発生して起動できないような場合、回復コンソールを使って起動環境の復元やファイルの救出などを行うことができます。

回復コンソールは正常に機能しているときにインストールする必要があります。

詳しい使用方法は『ヘルプとサポート センター』で「回復コンソール」を検索し、確認してください。

### ● 回復コンソールのインストール

- 1 [スタート] - [ファイル名を指定して実行] をクリックする
- 2 「C:¥windows¥i386¥winnt32.exe /cmdcons」と入力する
- 3 [OK] ボタンをクリックする

[Windows セットアップ] 画面が表示されます。画面の指示に従ってインストールしてください。

インターネットに接続できない場合は、更新された Windows セットアップをダウンロードすることができませんが、回復コンソールのインストールはそのまま続けることができます。

### ● 回復コンソールの操作方法

- 1 電源スイッチを押す

パソコンを起動したときにオペレーティングシステム一覧が表示されます。

通常、システムを起動する場合は、「Microsoft Windows XP Professional」を選択してください。

- 2 「Microsoft Windows XP 回復コンソール」を選択する

画面のメッセージに従ってください。

最後に「C:¥WINDOWS>\_」が表示されます。

- 3 コマンドを入力する

「help」を入力すると、回復コンソールで入力できるコマンドの一覧が表示されます。

各コマンドの説明については、『ヘルプとサポート センター』でご確認ください。

回復コンソールを終了したい場合は「exit」と入力してください。パソコンが再起動します。



